



令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	目黒将史	2024年 9月18日、 10月9日	1811 地域文化 共同研究室	<p>テーマ： 地域文化コースにおける卒業論文（専門演習）・地域課題解決研究ルーブリック活用の実践報告</p>
				<p>実施目的： 2025年度課程表において、現状の必修科目・選択必修科目、卒業要件を見直していく。これにより学生一人一人が、自身の関心ある内容の学びを深めていくことが可能になる。その反面、コースとして体系立てた学びが見えにくくなることも事実である。そのため、教員（ゼミ）ごとに履修ロードマップを作成し、卒業研究執筆までの体系化した学びを、学生にどのように提供できるのかを、ゼミ便覧にて明示していただく。そのローママップを作成することを目的とする。</p>
				<p>キーワード：履修ロードマップ、コア・ユニット科目、卒業論文（専門演習）、地域課題解決研究</p>
				<p>実施内容： 2025年9・10月のコース会議後にFDを行った。地域文化コース専任教員全員が来年度ゼミ便覧掲載の履修ロードマップ作成に向けて、来年度在籍予定の全コース教員（+上水流教授）が報告した。 報告内容は、論・研究（その他、専門教育科目コア・ユニット科目の授業）でどのような内容・テーマの授業を行っているか。他の教員の授業とどのように結びつけていけるか。近い分野の研究だけでなく、地域文化コース全体でどのように体系立てられるかをイメージして、それぞれがロードマップ案を提示した。 FDの成果は2025年度地域文化コースゼミ便覧に反映され、2025年度オリエンテーションにて、1・2年生へ配付した。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	草薙邦広	2025年 3月24日～	オンライン	<p>テーマ：科研費取得に関するFD</p> <p>実施目的：                      地域文化コース教員を対象として、科研費取得のノウハウ、科研費制度の現況、科研費による研究プロジェクトの体制作りや運用に関する情報提供を行う。開催方式はオンライン方式として、コーディネータの草薙による話題提供による動画配信、その後、地域文化コース教員が利用する Teams 上での質疑応答・意見交換を行う。</p> <p>キーワード：研究費・科研費・研究推進・教育研究活動</p> <p>実施内容：                      2025年3月24日より話題提供の動画を配信し、およそ1週間程度に亘り Teams 上での質疑応答・意見交換を実施した。質疑応答・意見交換では、a 科研費取得に関する研究テーマの設定、b 現在制度改革下にあるデータ管理計画 DMP の記載、および本学データ管理ポリシーについて取り上げられた。</p> <p>【参考資料】</p> <p>(a) 話題提供動画へのリンク                      (b) FD 配布資料 へのリンク</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>以上</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (経営分野)	朴 唯新	通年 第2水曜日 コース会議	Teams における オンライン会議	<p>テーマ： アクティブ・ラーニングにおける学びの多様性</p> <p>実施目的： 合理的配慮の観点からコミュニケーションが苦手な学生への対応を考える</p> <p>キーワード： アクティブ・ラーニング、配慮学生への対応</p> <p>実施内容： 令和6度のコース別FD活動は、主に「アクティブ・ラーニングにおける学びの多様性の視点」から、コース会議においてコース教員のゼミ活動などの情報を共有した。具体的には、7月10日(水)、9月11日(水)、10月9日(水)に開催したコース会議において、各ゼミの運営状況(夏合宿等)、インターンシップ、期初の学生面談等の情報を共有し、効果的な学生指導について意見交換を行った。</p>
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (情報分野)  (経営情報学部 経営情報学科)	富田哲治 折本寿子 佐々木宣介 重丸伸二	通年毎月第2水 曜日の定例コー ス会議	1321 演習室	<p>テーマ： 地域産業コース情報分野における課題探究型地域創生人材ルーブリック作成の研修会</p> <p>実施目的： 地域産業コース情報分野の専門科目において課題探究型地域創生人材ルーブリックの導入と活用の支援を組織的に実施することが目的である。地域産業コース情報分野の3つのポリシーと各専門科目との関連性を踏まえたルーブリック作成について情報共有を行う。</p> <p>キーワード： 親ルーブリック、科目ルーブリック、カリキュラムポリシー</p> <p>実施内容： 課題探究型地域創生人材ルーブリックを親ルーブリックとして、地域産業コース情報分野の専門科目の科目ルーブリックの導入・作成を支援するための研修会をコース会議に合わせて不定期に実施した。具体的には、授業形態(講義型、演習型、実験型、グループワーク型など)に応じて、ルーブリックによる評価すべき優先項目について類型化し、各教員の担当科目で導入すべき項目の情報提供を行うことで、導入の支援を行った。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース 〔人間文化学部 健康科学科〕	神原知佐子 杉山 寿美 松本 茜 山岡 雅子 岡田 玄也	令和6年8月8 日 10:00～14:00	2455 講義室 2215 演習室	<p>テーマ：学生のキャリアデザインを支援する組織的取り組み</p> <p>実施目的：本コースでは、①健康の維持・増進、疾病予防を食・運動面から企画・実践する人材の育成、②社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者の養成に取り組んでいる。取得できる免許・資格として、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格、栄養教諭一種免許状がある。卒業生が活躍するフィールドとして、官公署（管理栄養士、行政、衛生一般）、学校（栄養教諭）、病院、大学教員（管理栄養士養成課程、スポーツ分野）、公的研究機関（食品分野）等があげられる。本コースが養成を目指す人材像を踏まえて学生が4年間の学修活動を実践できるように、コースでの学びへの動機づけ、キャリアビジョンの明確化及びキャリアデザインを支援する組織的な取り組みを検討した。</p> <p>キーワード：養成する人材像、キャリアビジョン、キャリアデザイン</p> <p>実施内容：                      本コースが養成を目指す人材像を具現化している卒業生を招き、仕事内容ややりがい、学生時代に力を入れて取り組んでおくべきことなどを在学生及びコース教員に講話してもらうとともに、意見交換会を開催した。                      予定講師：                      病院管理栄養士1名、行政管理栄養士1名、食品衛生監視員1名、栄養教諭1名、大学教員1名、研究機関1名</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 地域資源開発学科	甲村浩之 萩田信二郎	令和6年4月～ 随時開催	Zoomによるオ ンライン審議、 第一会議室等	<p>テーマ：地域資源開発学科の進路についての情報共有とキャリア教育の実践</p> <p>実施目的：地域資源開発学科では昨年度初めて卒業生を送り出した。まだ、新しい学科なので新学科の就職先（教職、官公庁、民間）、進学先（県大・他大学）、取得資格（教職・農業、食の6次産業Pro、食品衛生検査員、農業技術検定）等の情報共有を密に行うことで今後の学生指導、カリキュラムの改善に進める。</p> <p>キーワード：就職、進学、資格</p> <p>実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 令和6年11月25日3限に、学科1年生42名、2年生34名に対して、庄原市商工会議所の本平氏をお招きして、地域振興、人口問題、地域活性化などについて商工会議所や関連企業等の取組事例をお話いただいた。学生の理解度を5段階評価でアンケート集計した結果1年生で4.45、2年生で4.56と非常に高い値となり、各人のキャリア形成に役立つ話であったと期待している。地方創生とは、地方がそれぞれの特徴を生かしたまちづくりをすることである。なお、庄原商工会議所が実際に行っている活動としてスマート農業、庄原古民家ステイ事業、県立広島大学との連携事業なども紹介された。</p>
	藤田景子 村田和賀代 谷垣悠介 甲村浩之	通年 毎月第2水 曜 2限 他	Zoomによるオ ンライン審議、 第一会議室、フ ィールドC等	<p>テーマ：国際異文化農業体験研修の在り方の検討と実践</p> <p>実施目的：ローカルとグローバル双方を学ぶ当学科の同科目について、昨年度は2年生ほぼ全員に対して実施でき、令和5年度では令和6年度に多少でも改革できるように変更を協議し進めた。また、フィールド科学実習Ⅰの内容や他科目とどのように具体的に連動させていくかができていないので、継続して検討していく</p> <p>キーワード：国際異文化、実習、カリキュラム</p> <p>実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 ベトナム研修引率者を含めてワーキンググループをつくり、これまでの事前学習とベトナム研修の課題を検討した。 国際異文化農業体験研修を受講した学生にアンケートを実施し、課題の分析を行った。 事前学習の内容を変更し、学科会議で学科教員と協議した。 令和6年度に本科目受講生（2年生）全員にアンケートを行い、改善した内容の評価を行った。 実際にベトナム研修に参加した教員から意見聴取した。 学生と教員からの意見をまとめて、R7年度以降の国際異文化農業体験研修ⅠとⅡのさらなる改善に活かす。また、ベトナム研修実施時期について、教学課との連携が必要になるため、情報交換につとめることとする。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	松崎秀紀	通年 毎月第2水曜 2限	対面による会議	<p>テーマ： 学生に卒業研究を進める意義を考えさせる</p> <p>実施目的： 生命科学コースでは3,4年次に卒業研究を行う。しかし、卒業研究の意義、位置づけを理解しないまま研究室に配属される学生も多い。本年度は、本学部卒業生による1,2年生向けの講義を企画し、学生に早くから卒業研究を考えさせるための動機付けとする。講義では、卒業研究がその後のキャリアにどう役立ったか、卒業生の方からその具体例を解説していただく。</p> <p>キーワード： 卒業研究、卒業生による講義、ロールモデル、教育力向上</p> <p>実施内容：</p> <p>学生に卒業研究、地域課題解決研究に積極的に取り組むこと、卒業研究での学びとその後のキャリア形成についてより深く考えることを促すために生命科学セミナーの内容を議論し、以下のことがらを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学セミナーでは継続して各教員の研究内容紹介を行っている。本年度は、生命コース所属学生（約50名）を少人数（約25名 x2グループ）に分けることで学生が紹介された内容について質問しやすい環境を整備した。また、教員がより深く研究内容を紹介できるよう各教員の持ち時間をこれまでの45分から90分に延長した。</li> <li>大学で研究者として活躍する本学卒業生（岡本麻子博士（旭川医科大学））とサイエンスイラストレーター（ウチダヒロコ氏）による講演を行った。</li> <li>卒業研究発表会を通常の対面からハイブリッドに変更することで2年生以下の学生が上級生の卒業研究に接する機会を提供した。さらに、GoogleFormsにより、学生からの質問を受け付け、適宜、教員に回答していただいた。学生からの質問がかなり多く上がり、この形式が比較的うまく機能したことが実感された。</li> </ul>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	橋本温	<p>対象日で3-5時 限にかけて授業 を行う。班によ って実施週が異 なる</p> <p>A班： 10月9日 および 10月23日</p> <p>B班： 10月2日 および 10月16日</p>	庄原キャンパス 大講義室	<p>テーマ： 環境科学と社会をつなげる</p> <p>実施目的：生命環境科学では、生命と環境が融合した様々な研究内容が行われるとともに社会に活かされている。生命環境科学基礎セミナーでは、生命と環境が関係する様々な面の活きた授業を行っている。本活動では、そのうち環境科学関連で、社会で活躍している公的機関・企業から講師を呼び、社会で環境科学がどう活かされているかを知り、より深い理解を行うことを目的とする。</p> <p>キーワード： 行政、企業活動、ディスカッション</p> <p>実施内容： 生命環境学科1年を対象に、3-5限の講義×2日間の講義を実施した。 講義内容は以下の通り、環境関連の企業/官公庁より講師をお招きし、実施した。 1日目：(株)エフピコ/広島県の環境への取り組み 2日目：(株)いであ/環境省の環境への取り組み ・いずれも講義の後に、教員-学生を交えたディスカッションを実施 ・約100名の受講学生を2つの班に分け、それぞれの講義を2回実施</p> <p>FDに関連する事項： *「オリエンテーションゼミ」および2年次科目である「環境科学セミナー」等と連携し環境科学版のポートフォリオである「学習の記録」等を記録し、各学生の環境科学への理解を促進すると共に、その教育効果に関する情報を次年度の教育改善に利用した。</p> <p>*学生の積極的な授業への関与の試みとして、授業中の Forms を利用した質問等の聴取、授業後のアンケートを行い、その情報を次年度の教育改善に利用した。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎青井聡美 助川文子 大古場良太 中村文 今川記恵 越智あゆみ (事務) 小嶋雅子 勝尾菜弥	①令和7年3月3 日(月) 13:30~15:30 ② 第1回 令和6年7月24 日(水)16:20~ 17:20 第2回 令和6年12月11 日(水) 16:20~17:20	①三原キャンパ ス4号館 4601教室 ②Web開催 (Zoom)	<p>テーマ：①課題探求型地域創生人材を育成するための教育改善 ②医療安全対策</p>
				<p>実施目的：保健福祉学部の現状を分析し、それに基づいて改善を図るために保健福祉学部（保健福祉学科5コースと助産学専攻科）の教職員が協働する機会を設け、保健福祉学部の教育力と質の向上を目指す</p>
				<p>キーワード： 課題探求型地域創生人材ルーブリック、授業改善、教育力向上、医療安全</p>
				<p>テーマ① 開催方法：対面 内容： 課題探求型地域創生人材ルーブリック評価結果をもとに、グループディスカッションを以下の視点から行った。①卒業時の目標値に達していない要因および目標を達するためにどのような教育が必要であるか②思い描いた教育を行うために、教員にどのような力があると良いと思うか？③思い描いた教育を行っていく上で課題はどこにあるのか。④その課題を達成するためにFDとしてどこから着手すると良いか。長期的に取り組むFD案とすぐに取り組むFD案 参加人数は47名（看護：15名、理学：5名、作業：7名、コミュ：5名、人福：12名、助産：3名）であった。研修後「アクティブラーニングに代表される学習者本位の教育の実現のために手法をはじめ、いろんな観点から教育力を向上させる良い機会となった」「教員自体もこのルーブリックを学生が到達するために必要な能力があるのかを考えさせられた」「保健福祉学部バージョンを作成する案は必要性を感じているので実現できれば良い」などの感想や意見があった。FD案として教育手法を学ぶ研修などの提案があった。</p> <p>テーマ② 第1回テーマ：医療安全の現状と展望 開催方法：WEB開催（Zoom） 講師 愛媛大学医学部附属病院 医療安全管理部 副部長 大下宗亮先生 参加人数：43名 第2回テーマ：医療従事者の腰痛予防に関する制度と対策について 開催方法：WEB開催（Zoom） 講師：理学療法学コース 助教 大古場良太先生 対象：保健福祉学部の5コース、助産学専攻科の教員、職員およびSA等の学生 参加人数：46名</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	実習検討会 岡田淳子	テーマⅠ： 4月19日（金） 13:30～15:10  テーマⅡ 毎月1回 ①04月03日 ②05月08日 ③06月14日 ④07月19日 ⑤09月04日 ⑥10月04日 ⑦10月31日 ⑧12月12日 ⑨01月14日 ⑩02月13日 ⑪03月13日	Teams オンライン会議	テーマ： Ⅰ：実習指導担当者との情報共有と協議：昨年度実習の成果と課題・看護実習教育の質の向上 Ⅱ：臨地看護実習教育の充実  実施目的： 本学教員と実習指導担当者間で情報共有と協議を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握・共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る  キーワード： 臨地看護実習、情報共有、看護教育質向上  実施内容： テーマⅠ：実習指導担当者協議会を「看護学生の省察的実践力の育成-省察の基盤を育む居育的支援-」をテーマに、令和6年4月19日オンラインにて開催した。参加者は教員20名、臨地実習指導者は19名であった。学生が看護場面を振り返る場面での発問方法や内容を検討し、教育的指導方法を共有した。  テーマⅡ：臨地看護実習教育の充実に向けて以下の内容について検討し、実施した。 1. 臨地実習要綱を作成し、2年生ガイダンスで配布し実習全体像と日程を説明し、実習への準備を行った 2. 学びが深まるように施設側と実習日程を調整し、令和7年度実習計画案を作成した 3. 実習における感染症対策の実施と感染状況を把握し、学生には予防対策を周知したが、病棟閉鎖などが起こったことから、今後は実習時期を検討する必要がある 4. 「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」の集計を行い、現状を把握した 5. SNSにおける個人情報取り扱いを啓発し、情報の漏洩等を防ぐことができた

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	看護学コース FD担当 青井聡美	テーマⅠ： 5月17日(金) 17:00～17:40 テーマⅡ： 毎月第3火曜日 12:15～12:45 ①4月23日 ②5月21日 ③6月18日 ④7月16日 ⑤9月17日 ⑥10月15日 ⑦11月19日 ⑧12月17日 ⑨1月21日 ⑩2月18日	Teams オンライン会議	テーマ：Ⅰ：新カリキュラム科目「看護統合演習」における演習内容の充実 Ⅱ：意義のある研究のためのヒントをえて、研究力、教育力の向上を図る 実施目的：看護大学教員に必要とされる「研究実践力」「教育力」「教員間協働力」の向上を図る キーワード：研究実践力 教育力 看護統合演習 実施内容： テーマⅠ：新カリキュラム科目「看護統合演習」における演習内容の充実 内容：本研修には26名が参加した。シミュレーション演習では、複数患者を担当する際に生じる多重課題への対応をテーマに設定し、4つの学修目標が提示された。その後、演習内容について具体的な説明が行われた。技術演習では、在宅酸素療法に関する実践（NPPV療法の詳細、HOT機器の説明および設定）、排泄ケアに関する講義と演習内容、学生が習熟不十分と感じる技術練習について説明が行われた。意見交換の場を設けることで、演習内容への理解をより深める機会を得た。 テーマⅡ：ランチディスカッション 内容：第1回から第7回までは、看護専門雑誌の記事で取り上げられている「看護研究」に関するトピックを題材とし、参加者には事前に資料を熟読した上でFDに参加するよう促し、ディスカッション形式で疑問や不明点、感想等について議論した。第1回：サブストラクション（13名） 第2回「Reserch Question の設定と精錬」「文献検討・文献レビュー」（参加者：13名） 第3回「研究デザイン」「概念枠組み・サブストラクション」（参加者：13名） 第4回「若手の会」（参加者：8名） 第5回「対象の設定・サンプルサイズについて」「アンケートの設計」「インタビューデータの収集」（参加者：14名） 第6回「量的研究-分析の基礎（前編）（後編）」（参加者：14名） 第7回「量的研究-分析の基礎」「Mixed Methods 研究」（参加者：10名） 第8回から第10回までの後半は、菅井教授が講師を務め、統計の基礎について講義を行い、その後ディスカッションを実施した。第8回「記述統計、母数と統計量」（参加者：9名） 第9回「記述統計、母数と統計量」（参加者：10名） 第10回「関連2群のt検定、独立2群のt検定」（参加者：8名）

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回 ①4月3日 ②5月1日 ③6月3日 ④7月11日 ⑤9月26日 ⑥10月22日 ⑦11月18日 ⑧12月19日 ⑨1月31日 ⑩2月26日 ⑪3月10日	①～③回： 対面 ④～⑪回： Teams オンライン会議	<p>テーマ： ①看護学コース カリキュラム評価の検討 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策</p> <p>実施目的：看護学コース DP ルーブリックと教育内容を多方面から分析を行い、効果的な学修環境の充実を図る。</p> <p>キーワード： カリキュラムツリー 学修支援アドバイザー 国家試験対策</p> <p>実施内容： 1. カリキュラム評価の検討 ・看護学コースカリキュラムツリーを完成させた。 ・DP 評価ルーブリック集計と分析を行った。 2. 学修支援アドバイザー(在学生・卒業生)の運用 ○R6 年度 SA 登録状況：2年生 17名・3年生 6名・4年生 21名 ○SA は以下の科目等において活動を行った。 慢性病看護実践論 (5名)、新人オリエンテーションセミナー (10名)、高大連携公開講座(基礎看護学) (10名) 基礎看護実習 I (10名)、慢性病看護実習・急性期看護実習・老年看護実習 (5名)、周産期看護実践論 (2名)、小児看護実践論 (4名) ○卒業生アドバイザー：卒業後3年目のアドバイザー2名が、日常生活援助方法論 I (バイタルサイン演習) において指導を行った。 3. 国家試験対策 (国家試験模試除く) ①国家試験対策通信作成(年2回) ・4月と12月に配信した。 ②国家試験模試後のチューター面談の依頼と学修状況が気になる学生への対応の検討 ・7月、9月、12月、1月の模試結果を受け、チューター面談を依頼し、学生の学修状況を国家試験対策面談シートに記録した。面談シートは教育課程検討会で共有し、必修の得点が合格基準に達していない学生には、チューターと連携し学生の学修状況を確認し、支援方法を検討した。 ・Forms を用いた看護師国家試験問題 (過去問利用) を作成し、Teams に投稿した。 ・必修問題動画を2本作成 (菅井先生) し投稿した。さらに、津森教授が作成した模試後の解剖学解説動画も共有し、学修支援を行った。 ③演習室利用等の調整 ・予約簿によると、10名の学生が国試対策室を使用した。(使用日数は10月：2日、11月：11日、12月：17日、1月：8日、2月：4日であった。) ④令和6年度看護師・保健師国家試験自己採点の集計・評価を行った。 ⑤教員採用試験対策 ・本部主催の教員採用試験特別講座のチームに教員採用試験受験希望学生を登録した(4年生4名、3年生4名)。学生は4月から7月に実施された講座の動画を視聴した。 ・教員採用試験模試(東京アカデミー)(1900円/回)を実施した(5月:8人、1月:7人、3月:10人(2年生3名参加))。 ・7月に教員採用試験予想問題(広島県過去問から作成)を Teams (各学年の養護教諭希望学生のチーム) にアップロードした。 ・8月の2次試験対策は4人が対面参加した。 ・2年生対象専門科目試験対策講座を実施した(沖西先生)(10月～12月の間、月1回)。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	大古場良太	毎週水曜日 昼休み	Teams オンライン	<p>テーマ： 「適切な支援のための学生状況の把握と共有」、「新カリキュラムに向けた魅力ある専門科目の設定」、「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的： 「多様な学生への支援を柔軟かつ適切に対応するため」、「国家試験やコアカリキュラムに即した科目内容を検討し、受験生に選ばれる魅力的な専門科目を設定するため」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図るため」</p> <p>キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「適切な支援のための学生状況の把握と共有」について                      毎週のコース会議を中心に、各学年チューターや科目担当から学生状況や成績不良者の情報を共有し、支援の一貫化を図った。あわせて、コース会議での報告を通して支援や配慮が必要と判断した場合は、チューターを中心に詳細を報告して対応を協議した。また、臨床実習では長期実習開始前に総合臨床実習指導者会議を開催し、実習教育の流れについて説明、ディスカッションを行った。また、臨床実習中は指導者と教員が連携して学生の実習状況を共有し、円滑な実習を送れるよう支援した。</p> <p>(2) 「新カリキュラムに向けた魅力ある専門科目の設定」について                      令和8年度から扱う新カリキュラムの設定へ向け、コアカリキュラムや国家試験出題基準に即した内容を吟味し、専門教育のさらなる充実を図るとともに受験生に魅力ある専門科目を検討した。国家試験模試結果の共有や国家試験対策講義、個別支援等に活用し、コアカリキュラムに沿った講義内容へ洗練した。また、担当科目の教授法の実践例紹介を通して、座学・演習科目間の関係を図った。さらに、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築も継続して検討していく。</p> <p>(3) 「各教員の教育・研究領域の紹介」について                      コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介（各教員の教育・研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介）し、教育研究能力の向上を図った。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要であったため、公開については取り扱う内容によって判断した。</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学 コース	助川文子	テーマⅠ コース会議 (毎回) テーマⅡ 年10回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	ハイブリッド (4102 会議室 と Teams)	テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：「魅力ある作業療法学」
				実施目的： テーマⅠ：学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討 テーマⅡ：「作業療法の魅力」を教員間でオープンキャンパスや高大連携、高校訪問に大学院向け、県立広島大学の作業療法の魅力について、情報の共有を図る。
				キーワード： 学生指導、 国家試験指導、 アクティブラーナー、 作業療法の魅力、 研究
				実施内容： コース会議：学生情報の共有 ① (5月15日) (池内/古山) 令和5年度国家試験総括 ② (6月19日) (藤巻) 「学生意識調査から見える作業療法学コース学生の認識」 ③ (7月17日) (助川) オープンキャンパス (作業療法学) 参加者の傾向 ④ (10月2日) (吉川) 「魅力ある作業療法学」(作業療法全般) ⑤ (9月18日) (久野) 「魅力ある作業療法学」(大学院教育) ⑥ (10月16日) (高木) 「魅力ある作業療法学」(地域作業療法) ⑦ (11月20日) (織田) 入試における面接 (推薦入試直前) ⑧ (12月18日) (増田/高木) 4年チューターによる国家試験前の情報提供 ⑨ (1月15日) (田中) 「魅力ある作業療法学」(基礎研究と作業療法) ⑩ (2月19日) (1-3年チューター) 学年指導の総括

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	中村 文 今川 記恵	令和6年4月 ～令和7年3月	Teams 上にて オンラインで、 実施	テーマ：年間を通じたコースでの教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る
				実施目的：①教育の質の向上、②教育の成果に即したカリキュラム改善、③教員の研究・臨床能力の向上および研究・臨床活動の活性化
				キーワード： 教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習
				実施内容：  <b>テーマⅠ 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有</b> ① 令和7年2月27日（木） （話題提供者：小島 理恵子、中村 文） 高大接続「総合的な探究の時間への支援」に関する報告 ② 令和7年3月18日（火） （話題提供者：堀江 真由美） コミュコースの就職動向5年前との比較  <b>テーマⅡ 教員が取り組んでいる臨床・研究活動の紹介と議論</b> ① 令和6年5月28日（火） （話題提供者：小澤 由嗣、本学大学院生 伊藤 雅良 さん） 運動障害性構音障害における了解度 comprehensibility の研究 ② 令和6年11月22日（金） （話題提供者：田口 亜紀、松山リハビリテーション病院 言語聴覚士 兵頭 直樹 先生） 松山リハビリテーション病院の音声・嚥下外来の紹介

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部 保健福祉学科 人間福祉学 コース	越智あゆみ	令和7年2月19 日(水) 10時40分 ～12時10分	Teams 上	<p>テーマ：人間福祉学コースの教育の質の向上に向けて</p> <p>実施目的：卒後教育を含む教育体制づくり</p> <p>キーワード：卒業生、ネットワークづくり</p> <p>実施内容：以下の内容で、人間福祉学コースFD研修会を開催した。</p> <p>(1) タイムスケジュール            10時40分～10時55分(15分間)：資料と進め方などの説明(担当：FD委員 越智)            10時55分～11時40分(45分間)：グループ別チャンネルへ移動し、意見交換。            (1グループあたり5～6人×3グループ)            11時40分～11時55分(15分間)：コース会議 Teamsに戻ってきた後、グループ発表。            11時55分～12時10分(15分間)：感想の共有後、コース長から挨拶し、終了。</p> <p>(2) グループごとの意見交換のテーマ</p> <p>【1グループ】            ①意見交換の主なテーマ：受験経験者である卒業生(や在学生)の協力も得ながら、入試に関わる広報活動や情報提供をどのように展開できると良いか。卒業生にどのようなことを「生の声」として聞けると良いか。            ②参考資料：web人間福祉学コース説明会で参加者からチャットで寄せられた質問内容            (注)高校生だけでなく、保護者からの質問も含まれている。</p> <p>【2グループ】            ①意見交換の主なテーマ：実習は、卒業生と繋がる一つの接点となっている。実習指導者として後進育成に協力して下さっている卒業生との連携をさらに発展させていくにはどのようなことができるか。卒業生にどのようなことを「生の声」として聞けると良いか。            ②参考資料：令和6年度精神保健福祉実習連絡協議会(令和6年12月9日開催)では、参加者17人のうち、前身である広島女子大学も含めての卒業生が8人(47%)を占めていた。</p> <p>【3グループ】            ①意見交換の主なテーマ：これまで、就職ガイダンスに招聘した卒業生などに協力してもらって「卒業生の声」をコースホームページに掲載してきた。教員が卒業生から生の声を聴く機会を設定するとしたら、卒業生に何を尋ねたいか。どのような観点から招聘する卒業生を選定するのが良さそうか(例：新卒時の就職先の種別で選定?転職経験者を選定?など)。            ②参考資料：コースホームページに掲載してきた「卒業生の声」</p>

令和6年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
助産学専攻科	宮下ルリ子 奥山 葉子 金川 景子 村上 杏里	4月3日 9:30 5月8日 10:40 6月4日 13:30 6月19日 14:00 7月16日 14:00 8月27日 13:30 9月9日 10:40 1月16日 10:40 3月10日 10:40 3月13日 14:00  計10回（助産学 実習期間中は除 く）	三原キャンパス 4315 研究室	<p>テーマ： 教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p>
				<p>実施目的： 学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討し実践に繋げる。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p>
				<p>キーワード： シミュレーション教育， 客観的臨床能力試験：OSCE</p>
				<p>実施内容： アフターコロナや少子化等、周産期に関する社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討するとともに、具体的な評価方法を検討・実践する必要があります。</p> <p>助産学専攻科では、今年度以下の通り取り組みました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）と評価について（4/3：金川）</li> <li>② タスク・トレーニングの検討と評価について（5/8 妊：奥山、分：金川、褥新：宮下・村上）</li> <li>③ 各期の客観的臨床能力試験：OSCE と評価の検討①（6/4：妊：奥山、分：金川、褥新：宮下・村上）</li> <li>④ シミュレーション教育後の実習での学び方（6/19：奥山）</li> <li>⑤ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（7/16：金川）</li> <li>⑥ 臨地における助産学実習内容と評価の検討（8/27：宮下）</li> <li>⑦ 各期の客観的臨床能力試験：OSCE と評価の検討②（9/9 妊：奥山、分：金川、褥新：宮下・村上）</li> <li>⑧ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（1/16：宮下）</li> <li>⑨ 修了時の学生の学修到達度について（3/10：村上）</li> <li>⑩ 実習指導担当者との実践報告および振り返り（3/13：奥山）</li> </ol>